



第35回全国豊かな海づくり大会 ～富山～
(式典、平成27年10月25日 富山県射水市)

CONTENTS

第35回全国豊かな海づくり大会について	2
	増殖推進部 栽培養殖課
平成27年度我が国周辺水域の資源評価について	5
	増殖推進部 漁場資源課
回遊魚	7
	増殖推進部 参事官 板倉 茂
平成27年10月分のプレスリリース	8

第35回全国豊かな海づくり大会について

増殖推進部 栽培養殖課

去る10月25日（日）、第35回全国豊かな海づくり大会富山大会が、「海と森 つながる未来 命の輪」を大会テーマに、第35回全国豊かな海づくり大会富山県実行委員会及び豊かな海づくり大会推進委員会の共催により、農林水産省、環境省の後援のもと富山県射水市で開催されました。

全国豊かな海づくり大会は、水産資源の維持培養と海や湖沼・河川の環境保全に対する意識の高揚を図るとともに、水産業に対する認識を深めていただくための国民的行事として、昭和56年度から毎年開催されています。

大会当日は好天に恵まれ、式典会場である射水市の高周波文化ホールには全国各地から1,117名もの漁業関係者が集まりました。

式典は、天皇・皇后両陛下御臨席のもと、大会旗入場に引き続き、森本太郎富山県漁業協同組合連合会代表理事会長の開会のことばで始まり、大会会長である大島理森衆議院議長は、資源管理や漁場環境の保全の必要性を訴え、富山県民全員が参加している森づくりや国際環境協力活動など「森・川・海」の環境を守るための先駆的な取組を称賛し、「本大会を契機に、豊かな海を育むことの大切さや水産資源の保護・管理等に対する理解が、全国に広がることを期待している。」と御挨拶されました。

続いて、石井隆一富山県知事が「“神秘の海”と呼ばれてきた富山湾は、日本海に生息する約800種類の魚うち、約500種類が生息する「天然のいけす」である。また、海越しに立山連峰を望む世界でも稀な美しい景観や国際環境協力や海洋環境保全などの積極的な取組が高い評価を得て、ユネスコが支援する「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟が実現した。今大会のテーマにもあるように、本県の豊かな「森・川・海」の環境を、未来を担う子どもたちにしっかりと繋げていきたい。」と歓迎のことばを述べられました。

功績者団体への表彰では、「栽培漁業部門」、「資源管理型漁業部門」及び「漁場・環境保全部門」の3部門からそれぞれ大会会長賞、農林水産大臣賞、環境大臣賞、水産庁長官賞を受賞された団体の代表者に賞状が授与されました。大会会長賞を受賞団体を代表して賞状を受け取った富山県の「庄川沿岸漁業協同組合連合会」は、大正時代から続く安定したサケ稚魚の放流実績やアユの資源増大への功績などが高く評価されました。

続いて、作文コンクールで大会会長賞に選ばれた、富山県高岡市の小学校5年生の岡本春希くんが、富山の風習「ブリ歳暮」から人と海の関わりや富山湾のすばらしさを綴った「人とブリと富山湾」を発表しました。作文は、「すごい、大きな魚！」という驚きの声から始まり、叔母の嫁ぎ先へ祖母がブリを贈る支度中、つやつや光る大きな寒ブリを見たことが印象に残り、あの行事はいったい何だったのだろうという疑問からブリについて深く知りたくなった様子が綴られています。そして春希くんは、ブリを贈るという習慣は今も昔も富山の人々にとって欠かせないものであること、ブリを獲るための定置網漁法が環境に優しい漁法であることを学びます。また、昨年の夏に立山登山をしたときのことがこのように綴られています。

「谷底を流れる川は、激しく白い水しぶきをあげていました。街に近づいてくると、川の流れは、少しおだやかになっていました。（中略）そして川から広い海へとそそがれています。この体験を通して、山から川へ、川から海へと水の流れができていくということを実感しました。豊かな海の恵みは、山や森、川や街によってつくられているのです。」

そして、最後に「この富山県にブリがいることをとても誇りに思います。これからも、自然豊かな富山のためにつくりたいと思います。」と締めくくりました。海に対する感謝の念、富山のブリへの誇りを素直に表現し、堂々と大きな声で朗読した春希くんに、会場からは大きな拍手がいつまでも鳴りやみませんでした。

そしてプログラムは、「富山海づくりメッセージ」へと移ります。

子どもたちの「漁業体験、海づくり、森づくり活動のメッセージ」の発表では、ナビゲーター役の女優の室井滋さんが、漁業体験の様子を生き生きと発表する子どもたち一人一人に、「よい体験ができて良かったですね」と優しく語りかけ、会場が温かい雰囲気になりました。



式典行事（最優秀作文の発表）

本式典の目玉のひとつでもある高性能の投影映像機器等を使った映像演出では、ホタルイカ、シロエビ、紅ズワイガニ、ブリ等季節ごとに移り変わる富山湾の魚が、会場内全体に映し出され、その美しさと迫力は、まるで海の中にいるかのような臨場感あふれるものでした。

そして、新湊漁業協同組合の若い漁業後継者夫妻から、豊かな海への感謝と海を守り育てていく決意を込めた力強いメッセージがありました。結婚を機に7代目として漁業を継がれた塩谷さん。「富山に嫁いで毎朝獲れたての新鮮なお魚が食べられる喜びを感じている。」と夫人の遥さん。「この海の恵みに感謝し、海と共に生きることを誓います。」と二人声を揃えて発表されたメッセージがとても爽やかで印象的でした。

式典行事の最後には、岸宏大会推進委員会会長より「私達には、我が国の恵まれた水産資源を守るとともに、海の環境や生態系保全の取組みにより、豊穡の海という財産を将来に引き継ぐという重要な責務がある。新たな決意をもって、豊かな環境と生態系の保全に努めていく」などとする大会決議が読み上げられ、満場の拍手で採択されました。その後、大会旗が石井隆一富山県知事の手から次期開催県の吉村美栄子山形県知事の手へとしっかりと手渡されました。



式典行事（大会旗引継）

式典終了後、会場を「海王丸パーク」に移して、海上歓迎・放流行事が行われました。立山連峰と富山湾をバックに、日本海側最大級の斜張橋「新湊大橋」と帆船「海王丸」が並び立つ雄大な景観を誇る「海王丸パーク」では、地元の重要無形民俗文化財である越中の稚児舞が天皇・皇后両陛下をお出迎えし、全国的にも珍しい海上神事の西宮神社・ボンボコ舞が披露され、勇壮な漁船パレードが行われました。天皇・皇后両陛下による稚魚等のお手渡しでは、クロダイ、アワビ、サクラマス、アマモを若手漁業後継者4人が受け取りました。また、稚魚の御放流では、天皇・皇后両陛下は、富山県を代表する放流魚種のヒラメと量産化試験が進められているキジハタをそれぞれ海に放たれ、会場の参加者からの声援にお手を振って笑顔で応えられました。

今回の大会の舞台となった富山湾は、「天然のいけす」と呼ばれ、種類豊富な介類が漁獲されています。大会を通し、こうした富山湾の美味しい魚や食文化、雄大で美しい自然、歴史ある伝統・文化など富山の魅力とともに、豊かな海を育むことの大切さが全国に発信され、水産資源の保護・管理やつくり育てる漁業に対する理解が全国に広がる契機となったのではないのでしょうか。

そして、これから、開業したばかりの北陸新幹線等を利用して、“きときど”（新鮮な）の美味しい魚を求め、全国から多くの人達が富山を訪れることでしょう。

第36回大会は、平成28年9月に第36回全国豊かな海づくり大会山形県実行委員会と豊かな海づくり大会推進委員会の共催により「森と川から海へとつなぐ 生命のリレー」の大会テーマのもと、山形県酒田市及び鶴岡市で開催される予定です。

第35回全国豊かな海づくり大会 大会決議

我が国は四方を海に囲まれ、その海からの恵みは、国民に豊かな生活と優れた食文化をもたらしてきた。

ここ富山県は、本州日本海側の中央部に位置し、立山連峰から富山湾に至るまで、高低差4千メートルの変化に富んだ地形を有し、壮大な水の循環が美しい自然を支えている。

「天然の生け簀」とも呼ばれる富山湾は、ブリ、シロエビ、ホタルイカに代表される海の幸に恵まれ、定置網漁業を基幹とする沿岸漁業、さらには、海域の環境や特性を生かした様々な漁業の営みが、地域産業の発展に重要な役割を担ってきた。

私達には、我が国の恵まれた水産資源を守るとともに、海の環境や生態系保全の取組みにより、豊饒の海という財産を、将来に引継ぐ重要な責務がある。

今日まで35回にわたり開催されてきた「全国豊かな海づくり大会」の意義を改めて認識し、ここ富山県において、「海と森 つながる未来 命の輪」を合言葉に、新たな決意を持って、豊かな環境と生態系の保全に努めていくことをここに決議する。

平成27年10月25日
第35回全国豊かな海づくり大会



海上歓迎(漁船パレード)



天皇・皇后両陛下による稚魚の御放流

第35回全国豊かな海づくり大会受賞者一覧

【功績団体】

＜栽培漁業部門＞

大会会長賞	富山県	庄川沿岸漁業協同組合連合会
農林水産大臣賞	山形県	公益財団法人 山形県水産振興協会
環境大臣賞	岩手県	種市南漁業協同組合
水産庁長官賞	愛知県	鬼崎漁業協同組合

＜資源管理型漁業部門＞

大会会長賞	富山県	富山県小型機船底曳網漁業協議会
農林水産大臣賞	山形県	最上川第二漁業協同組合
環境大臣賞	北海道	北海道定置漁業協会宗谷支部
水産庁長官賞	沖縄県	沖縄県北部地区6漁業協同組合 (国頭、羽地、今帰仁、本部、伊江、名護)

＜漁場・環境保全部門＞

大会会長賞	富山県	氷見市水産多面的機能発揮対策協議会
農林水産大臣賞	福島県	いわき藻場保全研究会
環境大臣賞	山形県	小波渡地域藻場保全活動組織
水産庁長官賞	長崎県	佐世保市浅子地区活動組織

【作文コンクール】

＜小学校低学年の部＞

大会会長賞	浅井 千 晴	富山県射水市立大門小学校3年
農林水産大臣賞	野村 真 奈	富山県射水市立新湊小学校3年
環境大臣賞	小林 浩 輔	富山県射水市立大門小学校2年
水産庁長官賞	村田 リ 俐	富山県射水市立堀岡小学校3年
富山県知事賞	武 脇 楓	富山県富山市立芝園小学校3年

＜小学校高学年の部＞

大会会長賞	岡本 春 希	富山県高岡市立野村小学校5年
農林水産大臣賞	杉本 蓮	富山県立山町立立山北部小学校6年
環境大臣賞	高田 徳 行	富山県高岡市立野村小学校6年
水産庁長官賞	松瀬 冬 和	富山県立山町立立山北部小学校6年
富山県知事賞	沼田 隼 輔	富山県射水市立太閤山小学校6年

<中学校の部>

大会会長賞	高田 和輝	富山県富山市立和合中学校2年
農林水産大臣賞	道井 優征	富山県富山市立岩瀬中学校3年
環境大臣賞	島田 一世	富山県富山大学人間発達科学附属中学校2年
水産庁長官賞	真野 蓮実	富山県射水市立小杉中学校3年
富山県知事賞	石灰 七瀬	富山県射水市立新湊中学校2年

<高等学校の部>

大会会長賞	松林 麗奈	富山県富山県立滑川高等学校2年
農林水産大臣賞	米島 瑛一	富山県富山県立魚津高等学校2年
環境大臣賞	井加田 和奏	富山県富山県立大門高等学校3年
水産庁長官賞	木澤 里佳	富山県富山県立高岡高等学校2年
富山県知事賞	前崎 璃子	富山県富山県立高岡西高等学校1年



第35回大会キャラクター
「きときと君」

平成27年度我が国周辺水域の資源評価について

増殖推進部 漁場資源課

水産庁は、我が国周辺水域の主要な水産資源（52魚種84系群）の資源評価を行い、10月30日に「平成27年度我が国周辺水域の資源評価」として公表しました。

<資源評価について>

水産庁では、水産資源の適切な保存及び管理に資するため、国立研究開発法人水産総合研究センターや都道府県水産試験研究機関等からなる共同実施機関への事業委託により、毎年、我が国周辺水域における主要な水産資源の資源評価を行っています。

資源評価対象魚種は、海洋生物資源の保存及び管理に関する法律（平成8年法律第77号）に基づく漁獲可能量（TAC：Total Allowable Catch）制度の対象魚種であるマイワシ、マアジ、マサバ・ゴマサバ、サンマ、スケトウダラ、ズワイガニ、スルメイカを含む52魚種84系群^{*1}です。

資源評価では、魚種ごとに資源の状態（水準^{*2}・動向^{*3}）を判断し、管理方策を提案するとともに、TACの設定の基礎となる生物学的に推奨される持続的な漁獲量（生物学的許容漁獲量、ABC：Allowable Biological Catch）を提示します。

※1 系群：一つの魚種の中で、産卵場、産卵期、回遊経路などの生活史の一部あるいは全部が他と区別される群

※2 水準：原則として、過去20年以上にわたる資源量や漁獲量等の推移から、現在の資源状態を「高位・中位・低位」の3段階で区分

※3 動向：過去5年間の資源量や漁獲量等の推移から、資源の動向「増加・横ばい・減少」の3段階で区分

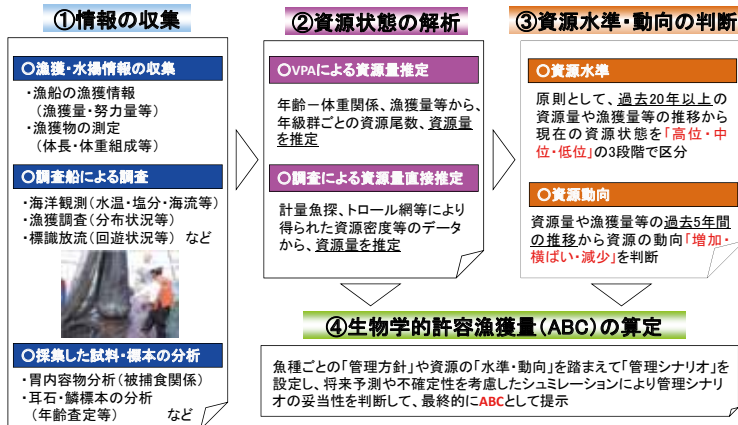
<資源評価の進め方>

資源評価にあたっては、漁獲量、漁獲努力量といった漁獲情報の収集に加え、調査船による漁獲調査、市場での漁獲物の体長・体重測定や胃内容物調査などを行い、分布状況や年齢・成熟度を調べます。

これらの調査結果から資源状態を解析して分布域における資源量等を推定し、資源の水準・動向の判断とABCの算定を行い、魚種ごとに資源評価案を作成します。

この資源評価案は、全国7箇所で開催される「ブロック資源評価会議」において、大学の資源研究者や都道府県水産試験研究機関等の関係者により、使用したデータや評価方法が適切であるかが議論され、取りまとめられます。さらに、TAC魚種の資源評価については、広く国民の皆さまからの意見を聴取するため、資源評価案に対するパブリックコメントを行うとともに、「全国資源評価会議」を開催しています。その他、漁業者等との意見交換会や資源評価の説明会も随時開催しています。

今年度は、7～9月にブロック資源評価会議を開催し、10月1日に全国資源評価会議を開催しました。なお、資源評価の透明性を確保するため、今年度はブロック資源評価会議も公開で行いました。



資源評価の流れ



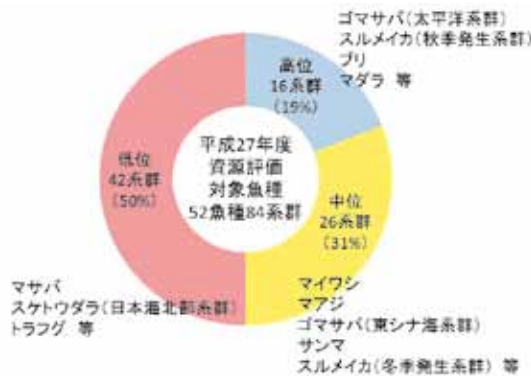
平成27年度全国資源評価会議の様子

＜平成27年度資源評価の概要＞

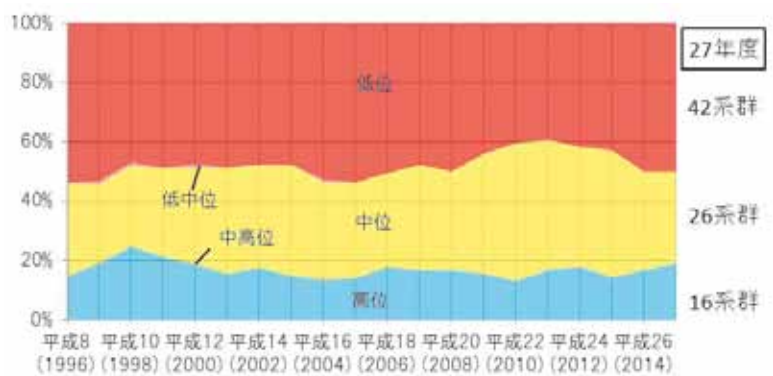
平成27年度の資源評価の概要は以下のとおりです。

52魚種84系群のうち、資源水準が「高位」のものが16系群（昨年度14系群）、「中位」のものが26系群（同28系群）、「低位」のものが42系群（同42系群）でした。このうち、TAC魚種（8魚種19系群）のみについて見ると、「高位」のものが3系群（同3系群）、「中位」のものが9系群（同10系群）、「低位」のものが7系群（6系群）でした。

我が国周辺水域の水産資源は、高位又は中位水準にあるものが半数を占めているものの、残りの半数は依然として低位水準にとどまっており、今後も資源管理のための取組を的確に行っていくことが重要です。



資源水準(平成27年度)



資源水準の推移(平成8～27年度)

各魚種・系群の資源評価の概要（ダイジェスト版）につきましては、以下のURLで公表しています。また、資源評価の詳細を掲載した報告書（詳細版）は平成28年3月頃に公表予定です。

わが国周辺の水産資源の現状を知るために
<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

資源評価は毎年、関係する多くの方々の参画により取りまとめられています。水産庁では、今後も皆さまからのご意見を聴く場を設け、より高精度な資源評価を目指していきたくと考えております。

魚種	系群	水準・動向	
		H26年度	H27年度
マイワシ	太平洋系群	中位 ↑	中位 ↑
	対馬暖流系群	中位 ↓	中位 ↓
マアジ	太平洋系群	中位 →	中位 →
	対馬暖流系群	中位 →	中位 →
マサバ	太平洋系群	低位 ↓	低位 ↓
	対馬暖流系群	低位 ↓	低位 ↓
ゴマサバ	太平洋系群	高位 →	高位 →
	東シナ海系群	中位 ↓	中位 ↓
サンマ	太平洋北西部系群	中位 →	中位 →
	日本海北部系群	低位 ↓	低位 ↓
スケトウダラ	根室海峡	低位 →	低位 →
	オホーツク海南部	中位 ↓	低位 ↓
	太平洋系群	中位 ↓	中位 ↓
ズワイガニ	オホーツク海系群	低位 →	低位 →
	太平洋北部系群	低位 ↓	低位 ↓
	日本海系群	中位 ↓	中位 ↓
	北海道西部系群	高位 ↑	高位 ↑
スルメイカ	冬季発生系群	中位 →	中位 ↓
	秋季発生系群	高位 →	高位 →
マアノゴ	伊勢・三河湾	低位 ↓	中位 →
ウルメイワシ	太平洋系群	中位 →	高位 ↑
	対馬暖流系群	中位 ↓	中位 ↓
ニシン	北海道	低位 →	低位 →
カタクチワシ	太平洋系群	中位 ↓	中位 ↓
	瀬戸内海系群	中位 →	中位 →
	対馬暖流系群	低位 ↓	低位 ↓
ニギス	日本海系群	中位 ↓	中位 ↓
	太平洋系群	低位 ↓	低位 ↓
イトヒキダラ	太平洋系群	中位 →	中位 →

注1:緑色は、TAC対象の8魚種19系群
 注2:「東シナ海底魚類 東シナ海キグチ」の動向は、不明
 ※水準:原則として、過去20年以上にわたる資源量や漁獲量等の推移から、現在の資源状態を「高位・中位・低位」の3段階で区分
 ※動向:過去5年間の資源量や漁獲量等の推移から、資源の動向を「増加(↑)、横ばい(→)、減少(↓)」の3段階で区分

魚種	系群	水準・動向	
		H26年度	H27年度
マダラ	北海道	高位 ↑	高位 ↑
	太平洋北部系群	高位 ↑	高位 ↑
	日本海系群	高位 →	高位 →
キアノコウ	太平洋北部	中位 ↓	中位 ↓
キチジ	オホーツク海系群	低位 →	低位 ↓
	道東・道南	中位 ↓	低位 →
	太平洋北部	中位 →	高位 ↑
ホッケ	根室海峡・道東・日高・胆振	低位 ↓	低位 ↓
	道北系群	低位 ↓	低位 ↓
	道南系群	低位 ↓	低位 ↓
アマダイ類	東シナ海	低位 →	低位 →
ブリ	東シナ海	高位 ↑	高位 ↑
ムロアジ類	東シナ海	低位 ↓	低位 ↓
マチ類	奄美・沖縄・先島 アオダイ	低位 →	低位 →
	奄美・沖縄・先島 ヒメダイ	低位 →	低位 →
	奄美・沖縄・先島 オオヒメ	低位 →	低位 →
	奄美・沖縄・先島 ハマダイ	低位 ↓	低位 ↓
	瀬戸内海東部系群	高位 →	高位 ↑
マダイ	瀬戸内海中・西部系群	高位 →	高位 ↑
キダイ	日本海西部・東シナ海系群	低位 ↓	低位 ↓
	日本海・東シナ海系群	中位 →	中位 →
ハタハタ	日本海西部系群	中位 →	中位 ↑
イカナゴ類	根室海峡	低位 ↓	低位 ↓
イカナゴ	伊勢・三河湾系群	中位 →	低位 ↓
タチウオ	日本海・東シナ海系群	低位 →	低位 →
サワラ	東シナ海系群	高位 ↑	高位 ↑
	瀬戸内海系群	低位 ↓	低位 ↓

魚種	系群	水準・動向		
		H26年度	H27年度	
ヒラメ	太平洋北部系群	高位 ↓	高位 ↓	
	瀬戸内海系群	高位 →	高位 ↑	
	日本海北・中部系群	低位 →	低位 →	
	日本海西部・東シナ海系群	中位 ↓	中位 ↓	
サメガレイ	太平洋北部	低位 →	低位 →	
ムシガレイ	日本海北部	低位 ↓	低位 ↓	
ソウハチ	日本海系群	中位 →	中位 →	
アカガレイ	北海道北部系群	中位 →	中位 ↓	
ヤナギムシガレイ	太平洋北部	中位 ↓	中位 →	
マガレイ	北海道北部系群	低位 ↓	中位 ↓	
ウマヅラハギ	日本海系群	低位 →	低位 →	
	日本海・東シナ海系群	低位 →	低位 →	
トラフグ	日本海・東シナ海・瀬戸内海系群	低位 ↓	低位 ↓	
	伊勢・三河湾系群	低位 ↓	低位 ↓	
	東シナ海 キグチ(注2)	低位	低位	
	東シナ海 シログチ	低位 ↓	低位 ↓	
	東シナ海 ハモ	低位 ↓	低位 ↓	
	東シナ海 マナツオ類	低位 →	低位 ↓	
東シナ海底魚類	東シナ海 エソ類	低位 ↓	低位 →	
	東シナ海 カレイ類	低位 ↓	低位 ↓	
	ホッコクアカエビ	日本海系群	高位 ↓	高位 →
	シャコ	伊勢・三河湾系群	低位 ↓	中位 →
ベニズワイガニ	日本海系群	中位 ↓	中位 →	
ケンサキイカ	日本海・東シナ海系群	低位 →	低位 ↓	
ヤリイカ	太平洋系群	高位 ↑	中位 ↓	
	対馬暖流系群	低位 →	低位 →	

平成27年度 我が国周辺水域の資源評価(52魚種84系群)

回遊魚

出張時の車内で考えたこと



増殖推進部 参事官
 いたくら しげる
板倉 茂

先日、京都出張の際に市内のホテルがほぼ予約で一杯となっているのを目の当たりにして、やはりこのシーズンは早めに予約をしておくべきだったと反省すると同時に、観光庁が今年公表した「観光白書」のニュースを思い出した。全国の宿泊施設の稼働率が軒並み上昇し、特に東京と大阪では2014年に稼働率が81%を超えたという内容で、主な原因は、外国人観光客が増えていることだという。京都駅から会議が行われる会場に向かう満員の路線バス車内でも、外国人観光客と思われる人々が何人か見受けられた。もちろん、京都は以前から外国人観光客が多いところであろうが、最近、銀座を歩いても外国人が多いことは感じられる。「インバウンド消費」という言葉も最近のニュースで知った。

そういえば、私も子供のころから旅行が好きで、毎週、休日の朝にはテレビで「兼高かおる世界の旅」を見て、(その当時は今ほど一般的ではなかった)外国旅行をすることに強く憧れていた。就職し、水研および水産庁で働くようになってから、仕事で海外に行く機会は多く昔の夢は叶えられたようにも思う。しかしながら、実際に外国に行ってみると、必ずしも積極的に行きたくなくなるような場所ばかりではないことに気がついた。風景や歴史的な建物など、それぞれの国の魅力には、いろいろな要素があると思うが、私の場合、食べ物や人々の気質等、その国での居心地の良さがとても重要であると感じている。

最近の外国人観光客の増加には円安が大きく影響していると思われるが、食べ物(和食)や日本人の気質(おもてなし)は、外国人にはどのような印象を与えているのだろうか。2020年の東京オリンピックに向けて、わが国にはより多くの外国人が訪れるであろう。彼らの日本滞在中に、日本の食べ物(特に水産物)に良い印象を持ってもらえれば、帰国後に現地での日本食消費にもつながり、わが国の水産物輸出拡大にも貢献するのではないかと、そのためには、外国人旅行者に本当に美味しい水産物を食べてもらう機会を増やす取り組みも重要なのでは、などと、京都出張を終えた帰途の新幹線車内で取り留めもなく考えているうちに、出張疲れもあってウトウトと眠りに落ちてしまった。

発表年月日	発表事項名	担当課
H27.10.6	「平成27年度 磯焼け対策全国協議会」の開催及び一般傍聴について	整備課
H27.10.9	「みなみまぐろ保存委員会（CCSBT）第22回 年次会合」の開催について	国際課
H27.10.15	「東京湾大感謝祭 2015 ～東京湾を感じて、学んで、味わう2日間！～」のご案内	計画課
H27.10.15	「みなみまぐろ保存委員会（CCSBT）第22回 年次会合」の結果について	国際課
H27.10.16	「漁村活性化のあり方検討会（第1回）」の開催について	防災漁村課
H27.10.16	「南極の海洋生物資源の保存に関する委員会（CCAMLR）第34回 年次会合」の開催について	国際課
H27.10.16	「第2回トラフグ資源管理検討会議」の開催及び一般傍聴について	管理課
H27.10.20	「第30回 瀬戸内海広域漁業調整委員会」の開催及び一般傍聴について	管理課
H27.10.20	太平洋クロマグロの漁獲に係る太平洋北部ブロックへの警報発出について	漁業調整課
H27.10.21	森山農林水産大臣、加藤農林水産大臣政務官及び佐藤農林水産大臣政務官の「第66回全国漁港漁場大会」への出席について	計画課
H27.10.23	森山農林水産大臣の国内出張について	裁培養殖課
H27.10.23	「日・パプアニューギニア漁業協議」の開催について	国際課
H27.10.23	「日・キリバス漁業協議」の開催について	国際課
H27.10.27	「日口漁業取締専門家会合」の開催について	国際課
H27.10.28	太平洋クロマグロ 2014年及び2015年生まれの加入量水準情報(2015年10月)について	漁場資源課
H27.10.29	「日口漁業取締専門家会合」の結果について	国際課
H27.10.30	「2015年度第二期北西太平洋鯨類捕獲調査(秋季沿岸域調査)」の終了について	国際課
H27.10.30	「第23回 太平洋広域漁業調整委員会」等の開催及び一般傍聴について	管理課
H27.10.30	「平成27年度 我が国周辺水域の資源評価」の公表について	漁場資源課
H27.10.30	山陰沖海域における外国漁船の重点取締りについて	管理課
H27.10.30	「日・パプアニューギニア漁業協議」の結果について	国際課

編集後記 窓辺のカーテン

冷え込みが強まり、鍋が美味しく感じる季節となりました。
比較的手軽に作ることができ、いろいろな具材や味付けが楽しめる鍋料理は幅広い層の皆さんに人気なのではないでしょうか。
好みは十人十色ですが、石狩鍋、あんこう鍋、いしる鍋など「海の幸」を使った鍋料理もおすすです。
これからの季節、「海の幸」の鍋を囲んで、心と体を温めてみてはいかがでしょうか。
「漁政の窓」では、皆様に水産庁施策についてわかりやすくお伝えできるよう努めていきますので、どうぞよろしく願いいたします。
ご意見やご質問がありましたら、以下にお願いいたします。

水産庁施策情報誌 **漁政の窓**

編集・発行 水産庁漁政部漁政課広報班

〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1 合同庁舎1号館8階

代表 03-3502-8111 (内線6505)

URL <http://www.jfa.maff.go.jp/>

ご意見 ご質問はこちらへ ➡ URL <http://www.maff.go.jp/j/apply/recp/index.html>